

忘れられた東洋一

ボクシングから読み解く戦後日本のまなざし

これまで、スポーツを通じた戦後のナショナリズムは、力道山プロレスに代表されるように対米意識を軸に語られてきました。

一方で「東洋一」を旗頭に掲げたボクシングの国際大会は、戦後の日本人が肯定的な自画像を描くきっかけとなりました。

ボクシング大国と謳われたフィリピンとの関係を掘り起こしながら、日本が経済成長する中で忘却していったアジアへのまなざしを、若き研究者が語ります。

乗松 優 (のりまつ すぐる) 氏

関東学院大学非常勤講師

専門 スポーツ社会学
カルチュラル・スタディーズ

経歴 1977年愛媛県生まれ。
九州大学大学院比較社会文化
学府終了。

著書に「ボクシングと大東亜
一東洋選手権と戦後アジア外交」
(大平正芳記念賞受賞)



平成30年10月6日(土)

13:30~15:30

城南市民センター 第1会議室(3階)

入場無料

定員80名

「講座名(市民カレッジ3)、氏名、電話番号」を下記申込先へ
※手話通訳が必要な方は9月28日までに連絡下さい。



(主催/申し込み先)

城南区生涯学習推進課

QRコードからでも申込できます⇒

〒814-0192 城南区鳥飼6-1-1

TEL 833-4043 FAX 822-2142

メール gakushu.JWO@city.fukuoka.lg.jp



ご来場は公共交通機関でお越しください